

特別養護老人ホームフェニックス (下関市)

○介護助手の導入の背景（導入の時期、導入前の状況）

介護助手導入前は、限られた人員の中で、介護業務の負担が増加している状況でした。

そのため、介護業務の負担軽減を目的に業務状況の実態把握を行い、介護助手の採用について、現場の主任・リーダーに提案しました。

その結果、「是非に」という要望があったため、介護助手の募集を開始しました。



○介護助手の募集方法

- ・ 山口県福祉人材センターと連携し、介護助手に関する住民説明会を開催しました。
説明会 1 回目（令和元年度）参加者 2 名
説明会 2 回目（令和 3 年度）参加者 1 5 名、採用 4 名
- ・ ハローワーク、山口県福祉人材センター、各種求人サイトへの求人情報の掲載。
- ・ 各種就職説明会での求人周知



○介護助手の主な業務内容と選定方法

1. 業務状況の実態把握と介護助手の業務内容の整理

日頃の業務を直接ケアと間接ケアに分類し、その中で資格や経験が無くてもできること、出来ないことに分け、下記の表のとおり、介護助手の業務内容を整理しました。

直接ケア業務			
移動介助	○	食事介助	○
移乗介助	×	おやつ介助	○
更衣介助	○	口腔ケア	○
入浴洗身	×	与薬	○
排泄介助	×	爪切り・耳掃除	×
整容	○		

間接ケア業務			
食事準備	○	記録	○
ティータイム準備	○	シーツ交換	○
入浴準備	○		○
ショートステイ対応	○		○
バイタル測定			
見守り	○		

○…資格や経験が無くてもできる業務 ×…資格や経験が必要な業務

2. 業務内容の決定

採用時のオリエンテーションの場や日々の業務担当者が別表に沿って業務内容を説明し、介護助手の経験や年齢等に応じて業務内容を一人ひとり決めていきます。その後、介護職員へ介護助手の業務内容について周知を行っています。

○介護助手導入後の業務負担軽減によって生まれた変化・良かったこと

ケアの充実

- ・元々、介護職員が行っていた業務を介護助手に担ってもらうことで、介護職員が利用者の直接ケアにかける時間が増え、より多くの状態把握と見守りができ、安全性が向上しました。また、記録を作成する時間も増え、利用者の情報共有をより詳細に行えるようになりました。
- ・介護助手は利用者とも年齢が近く、よくコミュニケーションをとってくださるので、利用者の変化を介護助手を通じて気づけるようになりました。



○採用後の介護助手へのフォロー

1. 採用時のオリエンテーションを丁寧に行うこと

介護助手は、介護経験者ばかりではないので、採用の時点で、より丁寧に業務内容を説明するように意識しています。

2. 困ったことが聞きやすい環境づくり

困ったことやわからないことを相談する相手（主任・リーダー・指導担当者）を明確にし、介護助手が疑問や不安感を抱え込まないようにしています。

3. 介護助手の位置づけを明確にし、介護助手と介護職員の双方が共有すること

介護助手はお手伝いさんではなく、施設全体（福祉サービス提供）のチームの一員であり、大切な存在であることを介護助手及び介護職員に認識してもらえようその都度、説明することを心掛けています。

○今後の展望と課題（介護助手への期待、課題解決に向けた取り組み等）

- ・近年の介護職員の採用が厳しい状況は、これからも変わらないと思われれます。そのため、今後も介護助手の採用は積極的に行い、大切に有効な人材として、大事に育てていきたいと考えています。
- ・介護助手は時短勤務の方が多いため、希望する曜日や時間帯等が異なる方を複数名雇用し、隙間なく人員を充実させていきたいと考えています。